

平成23年版

統 計

もりもの



守谷市

は し が き

平成23年版「統計もりや」を刊行します。

本書は、守谷市の各分野にわたる基本的な資料を収録し、市勢の現況と推移を明らかにして、関係各方面の参考に寄与しようとするものです。

編集内容については、今後も皆様のご指導をいただき、内容の充実・改善に努めてまいりたいと存じます。

最後に、本書の編さんに当たり貴重な資料の提供、その他格別のご協力をいただきました関係各機関に対し、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

守谷市長 会田 真一

●市章（平成14年2月2日制定）



市章は守谷市の守を模^{かたど}っています。下部の点は、弓矢の矢じりの形で、守谷の谷（や）の音と矢（や）に通じ、空高く飛ぶ矢のように、高邁^{こうまい}なる理想に向かって市が飛躍^{ひやく}・発展することを表しています。円形と中央の一の字は、市民の円満^{えんまん}なる一致団結を象徴したもので、上部の一点（理想実現）に力強く邁進^{まいしん}しようとの意味が込められています。

●守谷市民憲章（平成2年11月2日制定、平成14年2月2日継承）

わたしたちは、利根・鬼怒・小貝の清流と豊かな緑につつまれた歴史と伝統に輝く守谷の市民です。この郷土を愛し、健康で明るく住みよい文化都市を旨ざして、ここに市民憲章を定めます。

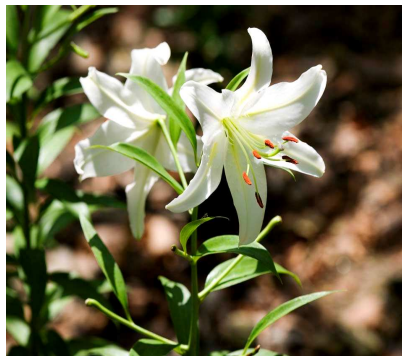
1. 水と緑に親しみ、自然を愛し、美しいまちをつくります。
1. 豊かな心を育て、体をきたえ、健康なまちをつくります。
1. 教育文化をたかめ、個性をのばし、うるおいのあるまちをつくります。
1. 明るい家庭をきずき、きまりを守り、平和なまちをつくります。
1. 互いに助け合い、責任を果たし、生きがいのあるまちをつくります。

●市の木・市の花・市の鳥



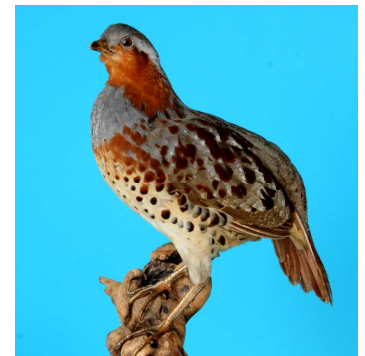
●市の木 松

いつに変わらない緑の松は、枯れ落ちて二つの針葉が固く結びついて^{しんよう}います。これは夫婦が相和^{あいわ}するのに似て、人生における幸福の基本を表し、市の発展を約束しているようです。



●市の花 山百合

山里に、また深山^{しんざん}に、白く咲く姿は清楚^{せいそ}で柔軟^{じゅうなん}な中にも、凜然^{りんぜん}とした感じがあります。そのうえ、芳しい香りを漂^{ただよ}わせて、まさに、自主・自立の高貴な人のようでもあります。



●市の鳥 小綬鶏^{こじゅけい}

朝夕、ヒナを連れて集う姿は、家族仲良く一家が繁栄^{はんえい}するようであり、また、将来、守谷市が住宅団地等によって、10万都市を形成するのに似ています。

（昭和49年12月25日選定）

2002年(平成14年)2月2日、守谷市が誕生しました。

2000年(平成12年10月1日現在)の国勢調査人口が5万人を超えたことにより、守谷市が誕生しました。市制施行に伴い、新たにシンボルマーク・キャッチフレーズ・シンボルカラーが策定されました。

市制にあたり、市民の共感を呼び、市の個性を発揮できるような統一的なイメージを創造し、守谷らしさの印象づけを図ります。また、地域の個性を育て、外部にアピールすることで、守谷のイメージアップと活性化につなげていくことを目的としています。

●シンボルマーク (平成14年2月2日制定)



水(Mizu)と緑(Midori)のまち、守谷(Moriya)の3つを意味するイニシャルMをモチーフに、未来に羽ばたく姿をイメージしたものです。小さな円は太陽をイメージし、輝きと活力を表しています。

シンボルマークは、全国から応募された 1,405 点の作品の中から選ばれました。

●キャッチフレーズ (平成14年2月2日制定)

ゆめさいと
きらめき守谷 夢彩都

Dream Sight MORIYA

キャッチフレーズは和文タイプと欧文タイプがあり、どちらも新世紀の多彩な夢と希望とともに、輝き(きらめき)の都市(まち)づくりへ発信するイメージを表しています。

キャッチフレーズは、全国から応募された1,894点の中から選ばれました。

●シンボルカラー (平成14年2月2日制定)



シンボルカラーは「もりやグリーン」と呼ばれています。

緑色は樹木等の緑に通じ、本市の自然環境に合致しています。市民意識においても緑に対する期待は大きいものです。また、緑色は人の心をなごませ安心感も与えてくれます。